

5月号 こどもがまんなかしんぶん

第043号 令和8年(2026年)5月号

狩猟採集民「バカ」の子どもに弟子入りした生活体験

狩猟採集民のことをよく知らなかった私は、最初、大人と一緒に行動しようにしましたが、猟で森の中を一日何十キロも歩くので、とてもついていくことができず、6歳と8歳の少年に弟



森歩きに慣れていないノブウ(亀井先生)を誘い出し、毎日の活動に連れ歩いてくれた「バカ」の子どもたち。

子どもたちが生まれながらに持つ能力や可能性は、大人の想像を遥かに超えている

ついでに、ただでも大変でした。人類が誕生して以来、行ってきた狩猟採集を生業にしている「バカ」の民族と暮らす中で驚いたのは、子どもたちが毎日のように新しい遊びを生み出すことです。その数は85種類、269事例に及び、中には大人の文化とは無縁なものもありました。狩猟と採集、伝統的な歌や踊り、他、飛行機や自動車など近代的な事物を目にして生み出した遊びがあり、おもちゃは森や畑で手に入れた植物などを使って手作りしていました。「バカ」の子どもたちの遊びと育ちについては、次面でご紹介しますので、ご参照ください。※中部アフリカ熱帯雨林で狩猟採集を行って生計を立てる民族のひとつ。



かめい のぶたか 亀井 伸孝

1971年神奈川県出身。京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了、理学博士。日本学術振興会特別研究員、関西学院大学社会学研究科COE特任准教授、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所研究員、大阪国際大学人間科学部准教授を経て、現在、愛知県立大学外国語学部国際関係学科教授。専門は文化人類学・アフリカ地域研究。著書に『遊びの人類学』とはじめフィールドで出会った〈子ども〉たち、『森の小さな〈ハンター〉たち—狩猟採集民の子どもの民族誌』など。ろう者と手話の研究も行っている。手話通訳士。

あそびもりもり

こどもがまんなか PROJECT

発行者：一般財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
理事長：安家 周一
東京都千代田区九段北4丁目2番25号
私学会館別館 4階
編集責任者：高尾 恵子
編集・制作：(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 株式会社バンナ日本総務部コトづくりチーム

アフリカ地域研究を通じて子どもの遊び、育ちを調査

私の専門は、世界各地の民族の文化や生活様式を研究し、人間とは何かを追求する文化人類学とアフリカの地域研究です。1996年にカメルーン東部州の熱帯雨林で暮らす狩猟採集民の集落を訪れ、一年半にわたり、現地の子どもたちと昼でも暗い森の中を歩き、生活と行動を共にしました。そこには大人の文化や社会とは異なる世界が広がり、子どもたちの自律的に文化を創造する能力に出会うことができました。それと同時に、「子どもは大人に導かれる存在である」という思い込みが、子どもたちが備えている多くの可能性や潜在能力を見えにくくしてきたのではないだろうかという疑問がわきました。



カメルーンの熱帯雨林に暮らす狩猟採集民「バカ」の人々とともに。

生活の身近なところに、興味をひくものがある幸せ

幼少期の我が家には、ウィルスから宇宙のことまでイラストまじりで紹介した「絵で見る比較の世界」という、楽しい本がありました。ページをめくるとは面白いと思ったものを観察してメモをとって、物足りないと感じたことは調べて、自分なりの考えを書き足していました。一方で、赤ずきんちゃんの絵

意識せずとも生活の中で得られるものは多い

小学生になると学校で習わないような漢字を見つけては読み方を調べて覚えるなど、興味、関心を自然と広げています。そんな私に対して、父はある意味、放任主義な一方、母は教育指導に熱心でした。その甲斐あって進学や教員になる道につながったと思いますが、もう一つの私に役立っていることとして、高校、大学時代に所属した落語研究会や学生寮で過ごした経験があります。落語研究会では、人前で話芸を披露すること、自ら演じ、表現することを身につけました。他の人とコミュニケーションを図ることは、研究発表の場においても大切な要素です。また、学生寮で友人と一緒に料理を作り、食卓を共にした経験は、食材を集めたり調理したりする過程の中に遊びの要素等もあつて、学校や家庭だけでは感じ得ないことや異文化を理解する機会になりました。

一見、無駄と考えることが、生きる力につながる

私が学生によく言うのは、「大学を卒業するまでに体験したことの大部分は、生きていくための強みになる。芸は身を助ける。」ということです。屋外に出て様々なことを体験するフィールドワークはとても有効な学びの手法ですが、その時にしか経験し得ないかけがえのないものです。子どもたちには、心ゆくまで子どもの生活を楽しんでほしいと願います。

子どもの目

つばきこころば

ありがとうのわけ

きたのはる 神奈川県いづみ幼稚園

娘が幼稚園に行っている間、祖母の家に訪問。「行きたー」と言われると思っていたので、事後報告でそのことを話したところ、なぜか「ありがと」という言葉が返ってきました。不思議に思い「なんでありがとうなの？」と尋ねると「弟の元氣に育てますよーを見てもらえたから」とのこと。思ってもみない返事に驚き、娘がますますに育っていること心から嬉しく思いました。

じいじ譲りの…

つじこども 大阪府せんびり幼稚園

じいじは、耳が大きくて指笛だよと家族で話していたところ、「じいじはみんなの話をしかり聞くら段々耳が大きくなつたんじゃない」とのこと。じいじはお爺さんで、お参りのとき檀家さんとお話しているのをよく見ていたようで、そのときに感じたそうです。そのような発言をした本人もじいじ譲りの指笛です。

ハートのオムライス

くらりゆめい 愛知県白竜幼稚園

野菜やたんばく質を考えて毎日こはんを作っている。でも4歳の子は、なかなか食べてくれない。試しにハートのオムライスを出したら、「かわいー」と目を輝かせて、最後まで自分で食べた。子どもが見ているのは栄養より、気持ちなのだと気づいた。

きもちがつたわる

おがたけんと 福岡県貝塚幼稚園

寒くなってきた秋のある夜、寝る時に温かいお布団を4歳の息子に掛けてあげました。すると、「きもちがつたわる」と息子が呟いてにこりました。昼間は怒ったりして悲しい気持ちにさせてしまうこともありますが、夜寝る前のおやすみの時間に大好きだよ、という気持ちを感じてくれる。さらにこんな素敵な言葉を使えるようにしたいと嬉しく思いました。

子どもたちの素直なまなざしと、日常の中にある小さな気づきの大切さを感じさせてくれる素敵な作品でした。 選者：広報委員／牛島 武史

***「子どもの目」への投稿をお待ちしております(150字程度)！** 本コーナーに採用された方には、QUOカード(1,500円分)を差し上げます。

【宛先】<メールの場合>kikoukodomonome@gmail.com <郵送の場合>〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25私学会館別館4F (一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構「子どもの目」係

【記入事項】氏名(子ども及び記録者(ふりがな付き))、年齢(例：4歳8ヶ月)、園名、自宅住所、電話番号を必ずご記入の上、ご投稿ください。なお、採用された作品については当機構ホームページに期間限定で掲載いたします。

親子で作って食べよう！ やさいシリーズ 22

おやさいドーナツ

ピーマンの苦味は、未熟な状態で収穫しているから、というのはご存知でしょうか？横方向に切ると苦味が抑えられるようなので工夫して摂りたいものです！今回はオープンで焼けるやさしいたっぷりのドーナツに！おやつにどうぞ！

材料(6個分)

A ・ピーマン 1/2個(10g)
・小松菜 1茎(10g)
・ニンジン 2cm輪切り分(10g)
・木綿豆腐 小1P(100g)
B ・砂糖 大さじ1
・サラダ油 大さじ2と1/2
・牛乳 1/3カップ
・ホットケーキミックス 1袋(150g)
※ドーナツ型は、サラダ油(分量外)を塗っておく。

作り方

1 オープンを180℃で予熱する。Aを1cm角に切り、やわらかくなるまで塩ゆでし、水気をきる。

2 ボウルにBを入れ、泡立て器でさらりとした感じになるまでしっかり混ぜ、さらに牛乳を加えて混ぜる。

3 2にホットケーキミックスをザルで振るいながら約3回に分けて加え、粉っぽさがなくなるまでゴムベラで混ぜる。さらに1を入れてさっくり混ぜ合わせる。

4 ドーナツ型に3を流し込み、オープンで約10分焼く。※焼き時間はオープンのメーカーにより異なります。焼き色がつきすぎような時は、途中でアルミホイルをかぶせてください。

5 竹串を刺して生地がついてこなければ、ひっくり返して型から外し、粗熱がとれたらラップで包んで冷ませば、出来上がり！

監修：帝塚山大学准教授(管理栄養士)佐伯 孝子 協力：帝塚山大学現代生活学部 食物栄養学科 佐伯ゼミ

親子で作って遊ぼう

せせがえ カップ

透明カップをくるくる回すと
いろんな衣装にチェンジ！
今日は何を着て遊ぼうかな？

材料

・透明カップ：3つ ・ペン(プラスチックに描けるもの。ボス力など不透明色のものがおススメ)

作り方

① 1個の透明カップに肌着姿の人の絵を描く。描いたら乾かす。

② 乾いたらその上にカップを1つ重ねる。

③ 乾いたらさらにカップを1つ重ねる。

④ リスを描く

⑤ 人の体に合わせて衣装を描く。スライを描く

⑥ カップを回して、別の衣装を描く。描いたら乾かす。

⑦ 衣装に合わせて頭部を装飾する。

動画で作り方を見てね

監修：アートの綿毛

BOOKプレゼント 各10名様

発行：株式会社世界文化ワンダフルグループ

クリームソーダのしゅわお
出口 かずみ/作・絵
価格1,650円(税込)
ISBN:9784418258314
クリームソーダの「しゅわお」は、喫茶店のお客さんたちのおしゃべりを聞くのが大好き。驚いたり喜んだりするたびに泡がジュワジュワ！おちゃめなしゅわおの、愉快で爽やかな夏のお話です。

たなばたセブン
たなばたセブン[新装版]
もとた いづみ/作・ふく だいわお/絵
価格1,430円(税込)
ISBN:9784418238248
愉快なヒーロー「セブン」が、行事の由来を教えてくれる人気シリーズ。たなばた飾りの意味や、たなばたクイズ、「おりひめとひこぼし」のお話も入って、これ1冊でたなばた行事の準備はOK！

アンケートはURLを入力するか、こちらから!!
URL <https://forms.gle/uD82FvJzyVLLCbQ59>

応募方法

本紙の感想について、上記2次元コードもしくはURLよりアンケートを実施しています。ご回答いただいた方の中から抽選で、20名様絵本をプレゼントします。皆様のご応募を心よりお待ちしております。

締切 令和8年6月30日(火)まで

6月号は、Web版で発行!! LINEでお知らせします。

6月号は、Web配信になります。「こどもがまんなかしんぶん公式アカウント」を登録していただく、LINEに閲覧URLをお知らせされます。6月号は「こども×インクルーシブ教育」をテーマに、子育ての楽しい情報をご紹介します。

2次元コードからLINE公式アカウントを取得してね

公式アカウントの登録はこちらから!!

Web版のため非公開

遊びが自然に育む 異年齢の交流

「バカ」の子どもが森へ狩り遊びに行く時は、必ず集団で出かけます。年上の子どもの幼い子どもを引き連れ、面倒をみながら森は楽しくも危険な場所でもあるという認識を皆が共有しています。

山門(やまかたな)で堀(せき)を築き、水たまりを作る

魚やカニ、エビを手づかみで捕る

堀(せき)

捕れた魚は容器に入れて集落に持って帰る

収穫物はわずかも 狩猟採集遊びが大好き

乾季に川の水位が下がると、少女たちは川をせき止め、水たまりの水をかき出して魚を捕まえる「かいだし漁」を行います。魚を見つけ、手づかみする楽しさとともに生業につながる体験を得ます。

乗り物を見たことで 始まり、大流行した 近代的な遊び

バスに見立てた板の上に少年と少女が乗り込み、板の下に棒を並べて坂道を滑り降りる「モトッカ」という遊び。車掌のように指示を与えたり、出発を命じたりして、乗客は大騒ぎ。

遊びを通じて食べ物を 分配し、平等性を 重んじる子どもたち

他の集落の子どもと一緒に狩りに出かけた子どもたち。捕れた獲物は平等に分配します。時には、亀井先生に森で捕まえたクモを解体し「どうぞ食べて」と足を分けてくれた子もいたそうです。

スケッチ

五月の声を聞く頃になると読み返したくなる本があります。アメリカの海洋生物学者レイチエル・カソンの著書「センス・オブ・ワンダー」新潮社です。20年前、まだ園長になつたばかりの私は理想に燃える余り、気負いと緊張とで心も体もカチコチになっていた時期がありました。そんな頃にこの短いエッセイに出会い、私は少しずつ私らしさを取り戻し、自然体で子どもに寄り添うことを思い出させてもらったのです。

広報副委員長
前田 幹

ヨーグルト

子どもたちとお話を始めるとき、私はいつも「朝ごはん、何を食べましたか?」と尋ねます。きちんと朝ごはんを食べてきたかな、という思いもありますが、それ以上に、朝ごはんの話題になると子どもたちの表情がふつとやわらぎ、会話が弾むことが多いからです。「おにぎり!」「目玉焼き!」「ああ、今日もみんな元気だな」とほっとした気持ちになります。

あるとき、足の骨を折った子が、外遊びの時間だけ職員室で絵本を読んでいたことがありました。もともと口数が少なく、私もあまり話をしたことがない子でした。みんなのように外で元気に走り回ることができず、どこか元気のない様子が気にかつていました。そこでいつものように、「朝ごはん、何を食べましたか?」と聞いてみました。すると、その子は消え入りそうな小さな声で「ヨーグルト」と答えてくれました。もう少し話を広げたいと思い、「どんなヨーグルト?」と続けて尋ねたところ、顔を真赤にして下を向いてしまいました。

「聞いてほしくなかったのかな」と思い、それ以上は尋ねませんでした。朝ごはんを食べてこれなかったのかも知れない、などという考えはしましたが、理由はわからないまま、その子は教室へ戻っていきまし。

それから数日後、その

森の民の生活を 遊びに反映する 「バカ」の子どもたち

女の子は細い木と葉っぱで家作りをして遊び、男の子は森林に狩猟チームを組んで狩りに行き、獲物を探って分け合います。大人の生業活動が、遊びに反映されているようです。

男の子と女の子で 遊びは違う?

少年は狩りや釣りに、少女たちはサツマイモ掘りに。男の子は狩猟、女の子は採集というように対象が動物と植物で違いはありますが、毎日、森に出かけては遊びや活動に没頭しています。

自然の環境を活かし ヤシの木で作った ブランコ遊び

おもちゃの素材となる植物などを自ら森や畑で手に入れ、それらを刃物などで加工して遊ぶのが「バカ」ならではのスタイル。アブラヤシの木のブランコも子どもが手作りしているのがスゴイ。

伝統的な文化に 彩られた 歌と踊りの遊び

ラフィアヤシの葉っぱをちぎり、精霊の衣装を作るのは子どもたちの役目。遊びとして男の子たちが太鼓を叩き、女の子たちが手を叩いて歌い、作った衣装を幼児がまがって精霊のダンスを舞うことも。

Life(ライフ)

くすのきしげのり/作
松本 春野/絵
瑞雲舎
ISBN:9784907613051

「Life(ライフ)」という小さなお店があります。お店といっても、働いている人もいないし、何も売ってはいません。「ライフ」には、だれかが何かを置いていき、そして何かを持ってこえるのです。冬のある日、おばあさんが亡くなったおじいさんの花の種を小さな袋に入れてお店に置いて行きました。春になり再び「ライフ」を訪れると…。

世界の中にいる子どもたちは、どんな暮らしをしてどんな遊びをしているのでしょうか。亀井伸孝先生が研究調査に訪れた、カメルーン東部にある熱帯雨林の森に暮らす狩猟採集民「バカ」の子どもたちの遊びを、親子で一緒にご覧ください。遊びを通じて子どもたちのなかに、いろんな力が育っていることが伺えますよ。

大人が子どもたちに森の歩き方や狩猟採集の方法を教えることの少ない放任的な社会のなかで、子どもがどのように知識や技術を獲得し、大人になっていくのか。「バカ」の集落には、世界各国の研究者が興味をもち調査に訪れます。

森の小さなハンターたち

亀井 伸孝/著
京都大学学術出版会

「バカ」の子どもの調査から見えてきたことは、子どもは生まれながらにして「遊ぶ力」を持ち、「集まる力」を持つということ。遊びは人間だけでなく他の動物にも見られる行動です。遊びは、何かの報酬や成果を求めて行われるものではなく、楽しいから行われるものであり、失敗しても繰り返して行われ変化していくという特徴があります。一見無駄と思える遊びのなかに達成感や向上感が得られたり、興味や交流が広がったり、様々な効用が見込まれます。子どもたちの遊びが、いつしか生活につながり、集団の暮らしや文化、慣習に結びついていくのではないのでしょうか。読者の皆さんも世界の人々の暮らしに、目を向けてみてください。様々な民族に興味をもつことは、多様性を受け入れることに通じ、子どもと遊びの理解を深めることにつながると思います。

どうもろこしぬぐぞう

はらしまみ/作・絵
ポプラ社
ISBN:9784591170281

全身にまとった緑の葉や黄色い頭のひげを、荒々しく深く、べりべりバリバリ引きはがし脱ぎ捨てていく、その名も「どうもろこしぬぐぞう」。そんなぬぐぞうの脱ぎっぷりがじつに心地良く、どこか清々しささえ感じられ、ついつい何度も声に出して読み返してしまうのです。癖になりそうなぬぐぞうの脱ぎっぷりに、さあ次は皆さんが虜になる番です。

地球の裏側、 アフリカに住む 子どもたちの 遊びを見てみよう

世界の中にいる子どもたちは、どんな暮らしをしてどんな遊びをしているのでしょうか。亀井伸孝先生が研究調査に訪れた、カメルーン東部にある熱帯雨林の森に暮らす狩猟採集民「バカ」の子どもたちの遊びを、親子で一緒にご覧ください。遊びを通じて子どもたちのなかに、いろんな力が育っていることが伺えますよ。

カメルーン
—東部州—

カメルーンの
大きさは日本の約1.3倍
あるんだよ!

赤道

子どもは今を生きる動物です

一般財団法人
全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
理事長 安家 周一

時間には追われている大人の生活の流れの中で、子どもは常にマイペースで過ごしている。イライラさせられるという家庭が多いのではないかと思います。何時には起床、何時にはご飯を食べて着替える、園の用意をして、何時には出発、子どもをこの時間通りに動かすのは相当な業と努力が必要ですね。

有史以前から子どもは「現在を生きる動物」でした。だから我慢はあまり得意ではありませんし食事の際、主菜、副菜にご飯、デザート全部が「皿に乗っていると、多くの子どもがまずは一番好きなデザートから食べ始めるのは普通のことです。甘いものを食べるのそれだけで満腹感となり、その後食欲は減退します。当家では以前イヌを飼っていました。食事は一日2回、ドッグフードと肉のジャーキーです。同じドッグフードを入れる、必ずジャーキーから食べます。食べる前にジャーキーはデザートなので後で食べる事と言いつつ聞かせておいてもだめです。子どもも動物に近いのだと思います。

大手の電気屋に行くと、電化製品のフロアにおもちゃのコーナーがなぜか?あります。孫を連れて電化製品を買おうと出かけ商品を物色していると、孫

子どもは今を生きる動物です

は一目散におもちゃの棚に走っていきま。数多くあるラインナップからお目当てのウルトラマンをすずに握りしめています。「次の誕生日のときに買おうね」と話しますが、「いや〜、買って〜」と泣き叫びます。私にすると「同じようなのが家にいっぱいあるやん!!」と内心思うのですが結局買うはめになります。

子どもは今を生きています。先のことを見通して我慢するのはまだ難しい時期なのでしょう。とすれば、段取りは大人側が周到に整え、子どもをその気にさせるしかないことになりそうです。平日頃、家族で行動するときには親と子どもの知恵比べ、共に修行ができるというですね。